

津堅島訓練場水域におけるパラシュート降下訓練の中止を求める抗議決議

令和3年8月26日、うるま市津堅島沖合において米軍によるパラシュート降下訓練が実施された。

今年になって8回目の実施で、うるま市制施行後、同訓練の実施回数が累計50回となった。

本市議会は、令和元年8月7日に防衛省に赴き、訓練の中止を求める防衛大臣宛ての要請書を手交した。また、令和3年2月26日にも沖縄防衛局に赴き、船舶の航行安全上の問題等から津堅島訓練場水域におけるパラシュート降下訓練の中止を求めてきたところであるが、度重なる訓練の実施は、いかなる理由があるにせよ到底容認できるものではない。

沖縄の施設・区域に関する昭和47年の日米合同委員会合意（5.15メモ）において、この水域の使用条件は水陸両用訓練とされているが、パラシュート降下訓練には触れられていない。

また、船舶の航行や漁業について「軍隊の活動を妨げない限り制限しない」とされていることから、本島と津堅島を結ぶ定期船や漁船等が頻繁に航行しており、事前に通知がなされてはいるものの、一歩間違えれば重大な事故につながる可能性があり、極めて危険である。

さらに、米軍が当該水域を使用する場合、7日前までに沖縄防衛局に通告することとされているが、実際には使用する日時のみでの通知で、その訓練内容等については明らかにしていない。

津堅島訓練場水域内での米軍によるパラシュート降下訓練は、地元の反対があるにも関わらず度々行われてきた。

特に、平成29年から令和元年まで3年連続で年間9回実施されてきたが、昨年は11回とそれを上回り、年間最多になった。

うるま市及び沖縄県はその都度、訓練の中止を強く求めたが、それを無視する形で強行されてきており、同訓練の常態化を強く危惧するものである。

よって、うるま市議会は、市民の生命・財産、安全を守る立場から津堅島訓練場水域でのパラシュート降下訓練に対し、嚴重に抗議するとともに下記事項について強く要求する。

記

1. 津堅島訓練場水域でのパラシュート降下訓練を一切行わないこと。
2. 日米合同委員会において「津堅島訓練場水域ではパラシュート降下訓練を行わない」ことを決定し、明記すること。
3. 日米地位協定の抜本的改定を行うこと。

以上、決議する。

令和3年9月24日

沖縄県うるま市議会

あて先

駐日米国大使 在日米軍司令官 在沖米国総領事 在日米軍沖縄地域調整官